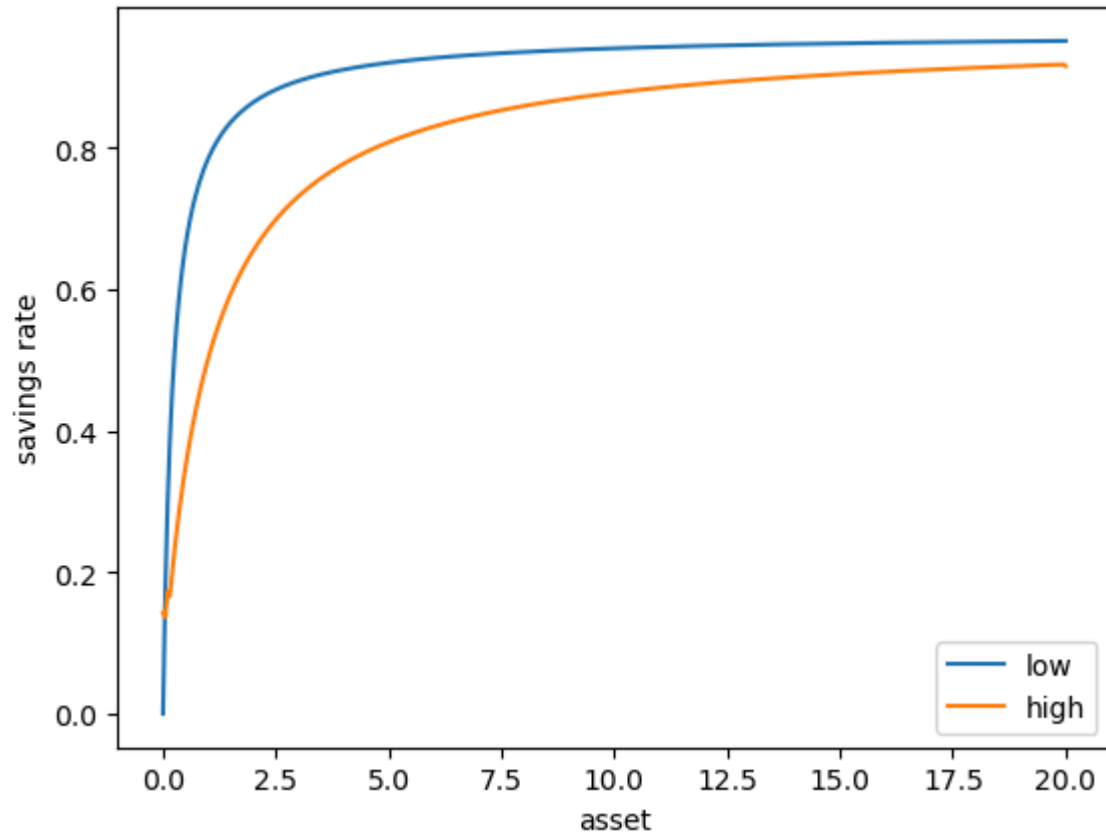


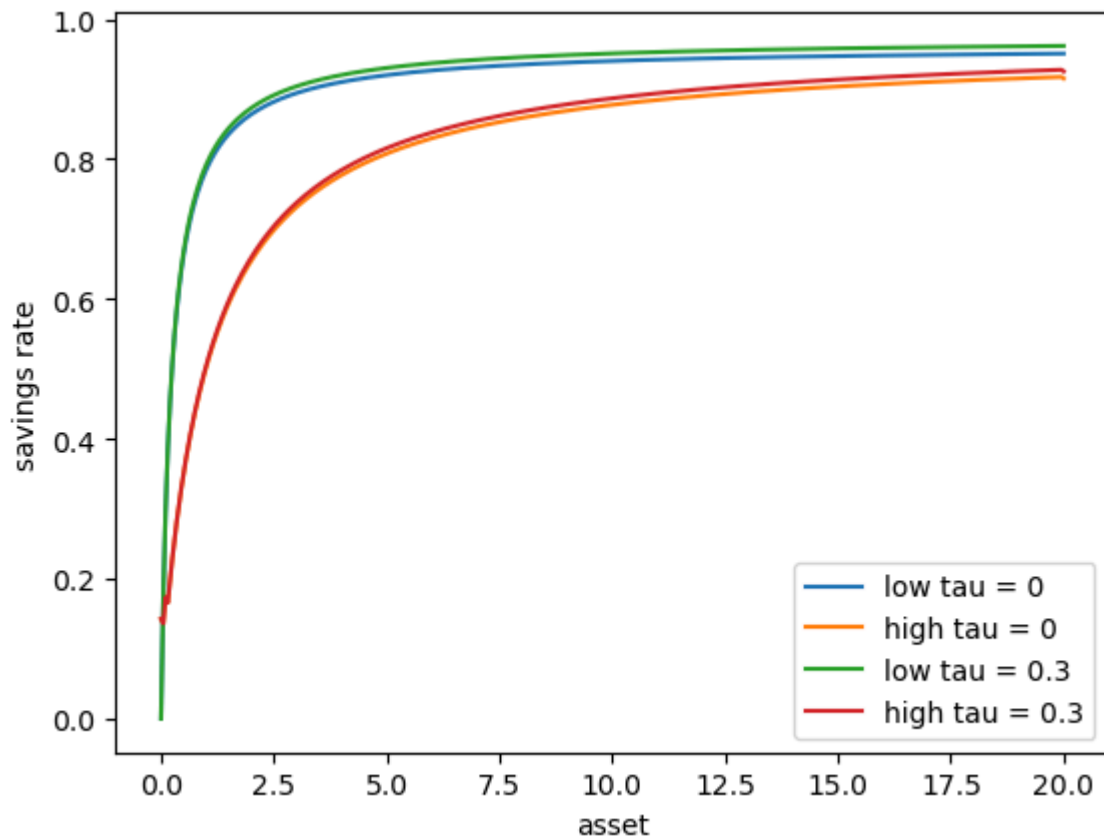
1



回答: 増加関数

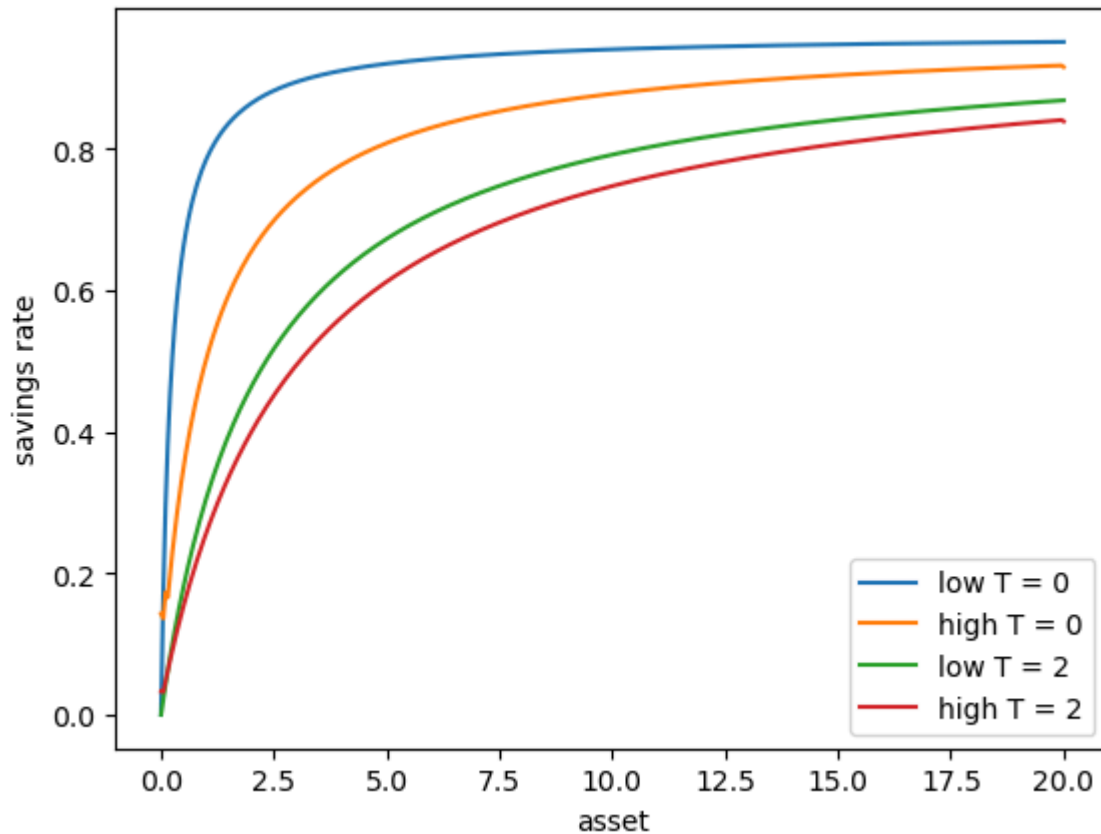
理由: 資産が多いほどリスクに対する保護として貯蓄のインセンティブが強まるから。

2



回答: 減少する

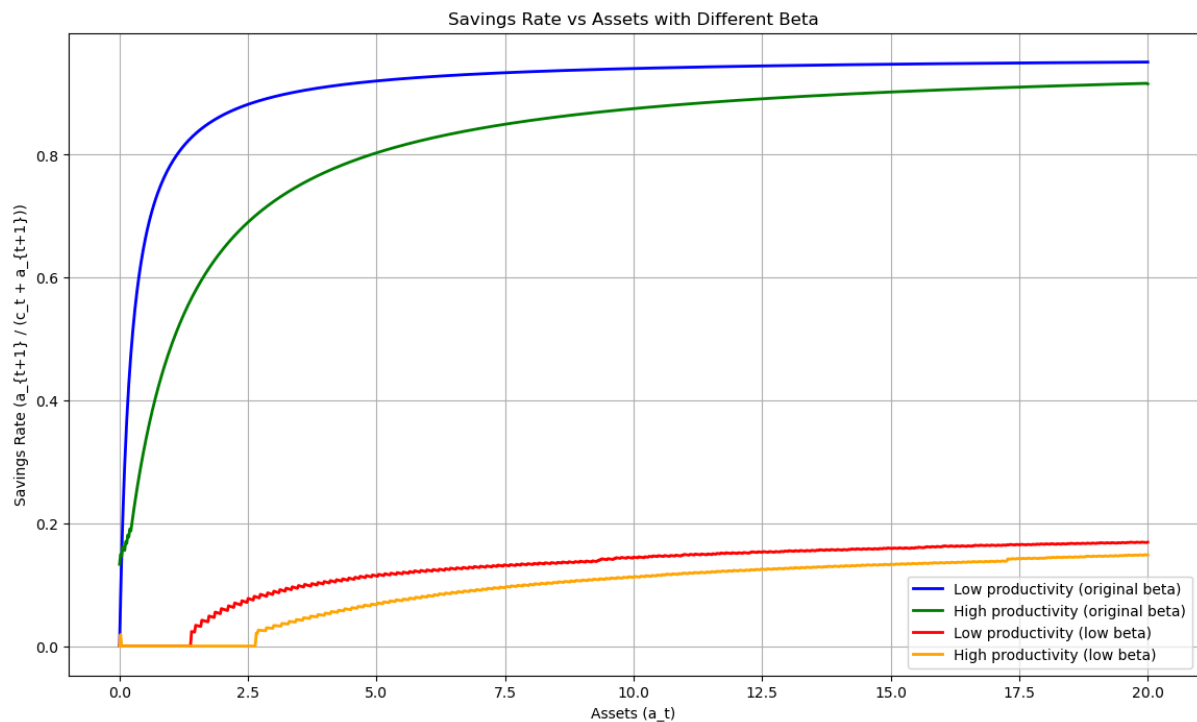
理由: 資本所得税により家計の利用可能な所得が減少するため、消費を維持するために必要な貯蓄の割合が低下する可能性があるため。また資本の利子所得に税が課されると、貯蓄がもたらすリターンが減少するため、貯蓄のインセンティブが低下する。



回答:貯蓄率は増加する。

直感的な理由:

補助金によって、家計は追加収入の一部を将来の不確実性に備えて貯蓄に回すことが期待される。特に補助金が一時的なものである場合、家計はこの一時的な収入を将来のリスクに対する緩衝として利用する可能性がある。また、家計は通常、収入が不確定な将来にわたって消費を平滑化しようとする。一括補助金はこのような消費スムージングを容易にし、より多くの資金を貯蓄に回すことができるようになるため、貯蓄率が増加する可能性がある。



回答:  $\beta$ が高いほど、家計は将来の利益を重視し、より多く貯蓄する傾向がある。  
 理由:  $\beta$ が低いと、家計は現在の消費をより重視する傾向がある。つまり、将来にわたって消費を延期するインセンティブが減少し、それにより貯蓄率が低下する可能性がある。また $\beta$ が低い場合、家計は将来の利子収入や投資収益の現在価値を低く評価します。これが、利子率の増加に対する貯蓄の反応を弱める要因となることがあります。